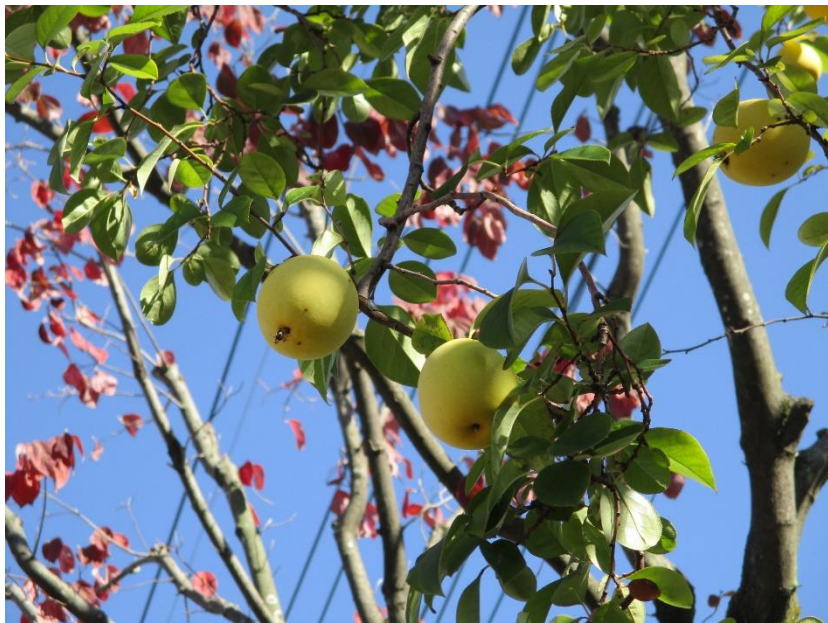


園のおたより



第 7 号

令和 4 年 1 0 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

望遠鏡で空を観ると・・・

園長 小倉 康

10月に2回、園庭に立てた望遠鏡から観える天体の様子を、オンラインで園児のご家庭に配信しました。私は小学校での星空観察会は多く実施してきましたが、幼稚園では初めての経験です。といっても暗くなってから園に集まっていたいただくのは安全上も年齢的にも無理があるので、オンラインでご家庭と繋ぐ形態にしました。本園では、各家庭が zoom に接続できる状況なので、こうした選択肢が可能です。また、当日朝の天気予報を確認してからメールで保護者にご案内できることも ICT 活用のメリットです。加えて、当日都合のつかないご家庭には、後日 youtube で動画を視聴していただけるようにしました。

この機会を9月から準備していたのですが、なかなか晴れることがなかったため、10月中旬の実施となりました。園児がいつも遊んでいる場所から観える星空とすることで身近に感じられると思い、園庭に望遠鏡を設置しました。10月11日は晴天で美しい夕焼けとともに日没しました。すると急速に雲が広がり、18時30分の開始時には、星は姿を隠し、わずかに木星が確認でき、東から昇ってくる月だけがはっきり観える状態になりました。焦りながらも望遠鏡で覗いた月面は十分に観察できたので、園児からたくさん質問をもらいながら楽しい45分間を共有することができました。

でも、できればいろいろな星を観てもらいたかったので、よく晴れた10月21日の夕方に再度挑戦しました。今回は、縞模様の木星とその衛星、輪を持つ土星をじっくりと観察した後、ベガ、アルタイル、デネブ、アルビレオ（二重星）、そしてたくさんの星が集まっているアンドロメダ銀河を観察できました。園児からの質問も、「土星の輪は何でできてるの」や「木星の温度はどれくらいなの」「宇宙はどうして黒いの」「星座はいくつあるの」など、簡単には答えられない疑問が次々と出てきて、時間を延長して楽しい時間を過ごすことができました。これらの機会を通じて、園児たちの宇宙への興味が高まってくれたとしたらとても嬉しいです。



附属特別支援学校のこと

10月15日（土）、教育学部附属特別支援学校の開校50周年記念式典に招待いただき、出席してまいりました。式典では、特別支援学校の先生方を中心に作成された記念誌や50年を振り返る動画を披露いただきました。開校30周年の際に作ったタイムカプセルを、20年ぶりに開封するプログラムもあり、当時在校していた在校生の参加で、とても温かいひとときでした。附属特別支援学校には「ハッピーくん」という公式キャラクターがいるのですが、40周年の時に誕生し、認定されていることも知りました。今回の式典には、実際に動くハッピーくんも登場して、楽しい雰囲気盛り上げていました。

今回、記念誌や式典でのお話の中に出てきた「子どもの育ちを真ん中に」という言葉が、とても印象的でした。50年前に附属養護学校として開校して以来、社会が変化してきた中で、一貫して一人一人の子どもたちに寄り添った教育を実現しようとされてきたことを、改めて認識しました。

さてコロナ禍前は、PTA活動の一環として、幼稚園と特別支援学校の保護者の方同士、子どもたち同士が交流する活動を継続していました。ここ数年は、社会状況を鑑み、なかなか実現できないことも多いのですが、同じ埼玉大学教育学部の附属学校として、特別支援学校があることはとても貴重なことと感じています。今年度も、特別支援学校の運動会や卒業式のタイミングに、幼稚園から贈り物をするPTA活動を継続しています。また、昨年度の学校保健委員会（すこやか親子）では、副校長先生に講演をお願いするなど、少しずつでも、特別支援学校との連携を図っていけるように取り組んでいるところです。

私も、初任者の年から、何度か実際に特別支援学校の授業を見せていただいたり、特別支援学校の先生方と話し合いをしたりする中で、いろいろなことを感じながら学ぶ機会が多くありました。附属特別支援学校は、小学部、中学部、高等部の子どもたち60名が在籍しており、学校の中に入ると、ほっとできる雰囲気が溢れています。一人一人にとって居心地の良い場所となるように、細やかな教育を進められていることが、その雰囲気になっているように思います。

附属特別支援学校で大切にされてきた「子どもの育ちを真ん中に」は、附属幼稚園の保育を進める中でも、共通して大切にしていきたいことです。本園は、大学、教育学部の附属園ですが、そのよさの一つとして、これらからも、特別支援学校との関わりを進めていきたいと考えています。

（副園長）



1くみ



「たのしいがたくさん」

運動会では、温かいご声援をたくさんいただきありがとうございますございました。運動会が近づくとつれ、子ども達は「運動会まであと何日だね」「1組運動会楽しかった!うちの人が来るのはいつ?」とわくわくする姿を見せてくれていました。うちのの人に自分の姿を見てもらい、2組3組のお客さんにも見てもらった初めての運動会の一日は、わくわくの楽しさとどきどきの緊張が入り混じる特別な日になったと思います。

運動会が終わってすぐ、今度は遠足へ行くことを楽しみにする姿が増えてきました。「北浦和公園へ行くんだよね」「北浦和公園で虫を見つけたから遠足で一緒に見つけようね」と、遠足の目的地には行き慣れている人もいます。しかし、1組20人で行く遠足は特別なようで、一人一人が楽しみをもっていました。遠足に行く前に、自然観察園へ行ってみようと誘った日に、園と自然観察園の間には道路があることを話しました。「どうやって渡るのかな?」と尋ねてみると、「右、左、右って見るんだよね!」「走って渡らない!危ない!」と、道路の渡り方を教えてくれました。実際に自然観察園へ行くときも、自分の目で左右と前を確認し、大きく手を挙げて出かけることができました。出かけ先の自然観察園では、園庭に落ちていたカリンの実を植えました。自然観察園にもカリンの木が育つ日が来るかもしれませんね。

先日の遠足では、実際に道での安全な歩き方を一人一人がやってみながら、園と北浦和公園、公園内を安全に過ごすことができました。北浦和公園は、秋の自然が豊かに彩られていました。子どもたちは、たくさんの落ち葉を両手いっぱい集めて落ち葉を雨のように降らしたり、大きな葉を集めて「花束みたい」と落ち葉ブーケにしたり、紅葉した綺麗な葉を大切に集めたり、秋の美しさを感じていました。ドングリが落ちているところでは、袋いっぱいドングリを集め「パンパンになった」「重い」「帽子付きのドングリがあった」「赤ちゃんドングリがあった」「(ドングリの中身が出ているのを見て)リスがつまみ食いしちゃったんだね」など、一人一人が自然に関わって過ごすことを楽しみました。1組みんなで集めたドングリはドングリケーキ屋さんの商品になっているものもあります。まだまだたくさんあるドングリや大きな葉を子どもたちと使っていくことを楽しみながら過ごしていきたいと思います。

2くみ

「鬼遊び」



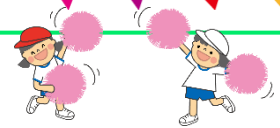
雨の日が多かった10月ですが、貴重な晴れ間には、元気に戸外に出て過ごす姿があります。春夏とは違う草花や虫を観察したり、心地よい日差しを浴びながらごっこ遊びをしたりして秋の空気をいっぱいに感じています。

今月初めには運動会も経験し、みんなの中で一緒に過ごしたり、体を動かして競い合ったりすることにも関心が高まってきています。そこで、ルールも意識しながらみんなで体を動かす遊びに取り組んでいます。1学期から続いている「けいさつごっこ」や、以前学級で紹介した「しっぽとり」の経験も踏まえ、「氷鬼」を新しく学級で紹介しました。簡単なルールですが、鬼や子(逃げる人)の人数で遊びが大きく変わる奥深さもあります。まずは教師が鬼役になり、運動会の赤白ごとの半分ずつでやってみました。それを何回か繰り返していくと、「みんなでやってみよう！」と話す人が出てくるようになりました。そこで30人みんなで、鬼と子の半数ずつに分かれてやってみました。ひとしきり終わると、体をいっぱい動かした満足感とともに、「みんなでやった方が楽しかった！」とその楽しさを感じる姿がありました。

それから数日経った日、好きな遊びをしている時間に「氷鬼したい！」と話す人がいました。まずは、教師と3～4人で遊んでいると、次々と人が集まっていつの間にか10人ほどの人数になっていました。鬼と子のやりたい方を自分で選んで遊びました。その日は鬼をやりたい人が多く、あっという間に子が全員捕まってしまう、鬼ごっこが続きませんでした。すると、次第に人数の差に気が付いて「これだと面白くないよ」と訴える人が出てきました。一旦鬼遊びを止め、やっている人たちで話をしました。すぐに終わってしまうことに物足りなさは感じつつも、鬼をやりたい気持ち強い人も多く、少しずつ解決策を探りました。すると、「やっぱり逃げたい」と話す人や「交代する！」と言う人が出てきて人数のバランスが丁度よくなりました。また、学級のみinnでやった時のことを思い出して、誰が鬼かわかるように帽子の色で区別することを提案する人もいました。

運動会を経て、何人かで顔を突き合わせながら遊びを進めていく姿をよく見るようになりました。運動会までの経験が運動会後の生活や遊びにつながっているようです。

3くみ



「運動会からの自信」

運動会では、たくさんの温かい声援をありがとうございました。一人一人が一生懸命に体を動かす姿、チームのみんなで力を合わせて競い合う姿、学級のみなどと息を合わせる姿と、いろいろな姿を見ることができました。初めて経験する3クラス合同の運動会ということもあり、「みんな頑張ってるね」と1、2組の友達の姿から力をもらったり、友達を応援する楽しさ、応援してもらうことの嬉しさを感じたりしながら、一日を過ごすことができました。

運動会の前から、お客さんとして3組のリズムを見に来てくれていた1組さん、2組さんが、運動会の後には、「3組の踊りがしたい！」と3組のところまで遊びに来てくれました。小さなお客さんが来てくれると、3組も張り切って踊りを教える人がいました。自分たちが使っていたポンポンを手渡し、レッスンの始まりです。初めは音楽をかけずに、1、2組の隣に立って体の動かし方を教えます。少しでも分からない表情をしていると、繰り返し見本を見せたり、言葉で動きを伝えたりして、一人一人がどうやったら振り付けが伝わるかを考え、工夫しながら教えていました。ある程度、振り付けを伝えられると、いよいよ音楽に合わせて踊ってみることに。途中で動きが分からなくならないように3組が前に立ち、見本を見せながら踊ります。最初は、1、2組の方に顔を向けながら踊っていたのですが、しばらくすると背を向けて踊るようになりました。不思議に思い聞いてみると、「ポンポンが分かるようにだよ」と、自分たちが練習の中で経験したことを思い出しながら、進めていました。繰り返し踊る中で、隊形移動を入れてみたり、リボンを使ってみたり、自分たちのアイデアを加えながら進める姿は、“こうしたらもっと楽しくなるんだよ”と年少の友達に伝えているようでした。「3組と同じように踊りたい」という1、2組の思いを受け止めながら、丁寧に教えたり、一緒に過ごしたりする姿にも大きな成長を感じ、とても嬉しい気持ちになりました。

“運動会”という大きな行事をみんなでやり遂げたことで、学級としての団結が深まり、一人一人がより自信をもって過ごしているように感じます。その自信を大切に、これからの生活も支えていきたいと思えます。